

# 愛知国際病院ホスピスだより

2014. 1

〒470-0111 愛知県日進市米野木町南山 987-31  
電話 代 表 (0561)73-7721  
ホスピス (0561)73-3191

## 年頭のごあいさつ

理事長 井手 宏

明けましておめでとうございます。ボランティアや賛助会員など多くのみなさまの支援により、おかげさまで愛知国際病院ホスピスも15回目の新しい年を迎えることが出来ました。心より感謝申し上げます。

おめでたい新年には、末広がり喜ばれます。そこで、ホスピスの末広がりのお話をさせていただきます。ホスピス病棟は、Lの形をしています。このLの形ですが、実は真直角ではないのです。正面に対して少しひろがっています。そう、末広がりなのです。この角度より狭くすると挟まれているような感じになり、逆にこれ以上開くと、抱かれている感覚がなくなると思うのですが、いかがでしょうか？入り口に立ち、この絶妙な加減をあげてみてください。

閉じ過ぎず、開き過ぎずのこの微妙な開き具合が重要です。日本人にはこのような絶妙なバランスというものがいろいろなところに存在します。昨年、世界中で有名になった「おもてなし」は、まさにこの日本人の絶妙なバランスで構成されたサービスなのです。もてなすことの一番は、大切にされている、受け入れられていると相手を感じるのだと思います。そのためには開かれた対応、開かれた環境が必要であり、それが「おもてなし」の基本だと思っています。日々の忙しさの中に没頭してしまうと私たちは言葉や対応が閉じてしまい画一的となってしまいます。症状が十分に緩和されないと患者さんも閉じてしまいます。互いに閉じてしまうとわかり合うことが困難になってしまいます。症状コントロールが上手くいくことと、理解しあうということは別のことのように思われがちですが、互いに心が閉じてしまわないためにも、患者さんの辛い症状を緩和することを一番に考えています。

建物と違って、自分と相手の間に感じる開き具合はいつも同じではありません。また、「おもてなし」は一人で行うものではなく、チーム全体で関わることです。チームとして開き具合が一致していなければ、「おもてなし」即ち良いケアは出来ません。「おもてなし」は、奥が深いのです。世の中が大きく変化し、ホスピスに求められる役割も変化してきています。しかし、「その人らしさ」を大切にするという基本は変わりありません。私たちはこれからも開かれたホスピスを目指して「おもてなし」のホスピスケアを続けていきます。

2013年12月、愛泉会の忘年会で有志による「夜空ノムコウ」(SMAP)の名演奏がありました。

あこのころの未来に ぼくらは立っているのかなあ  
全てが思うほど うまくはいかないみたいだ

作詞者スガシカオ氏の思いは、この言葉に凝縮されています。

1981年、愛知国際病院が誕生しました。1999年、愛知国際病院ホスピスが愛知県初のホスピスとして誕生しました。そして2014年、愛知国際病院は転換期を迎えています。病院本館は老朽化のため大規模な増改築を計画しており、私が2008年から勤務するホスピスも大きな岐路に立たされています。

現在、愛知県内のホスピス・緩和ケア病棟は14施設、257床(当院を含む)に増え、当院周辺でもここ5年の間に聖霊病院、豊田厚生病院などに開設されました。全国的に著名なホスピス医は次々と在宅医に転身して自宅や施設での看取りを推し進めており、愛知県でも終末期の在宅サービスは充実してきています。このような事情からか当院ホスピスへの入院を希望される方は増えてはいません。さらに2012年4月から緩和ケア病棟の診療報酬に逡減制(入院期間が長くなると報酬が減額される)が導入され、長期入院は経営を圧迫する要因になりました。ホスピスケアの中核を担う看護師のマンパワーを維持することも困難な状況が続いています。

当院は「ホスピスを自宅に」を掲げて14年あまりホスピスケアをおこなってきました。「神いやし我ら仕える」という病院の理念も大切にしてきました。しかし、さまざまな問題が表面化し、綺麗ごとだけでは立ち行かなくなってきました。これからも患者、家族から選ばれるホスピスとして存続していくために何をなすべきか、明確な方針を立てて速やかに実行に移す時期にきています。当院ホスピスが懸命に築き上げてきた独自の信念は何か、それを守り抜くために変革しなければならないことは何か。「肉を切らせて骨を断つ」覚悟で時代の荒波に立ち向かっていく所存です。

私の敬愛するシンガーソングライター、中島みゆきの「宙船(そらふね)」という歌です。

その船は今どこに ふらふらと浮かんでいるのか  
その船は今どこで ボロボロで進んでいるのか  
流されまいと逆らいながら  
船は挑み 船は傷み  
すべての水夫が恐れをなして逃げ去っても  
その船を漕いでゆけ おまえの手で漕いでゆけ  
おまえが消えて喜ぶ者に おまえのオールをまかせな

---

## 2013年度のボランティア「紫苑」

ボランティアコーディネーター 高田清子

今年度ボランティア「紫苑」は、5名の新加入者を迎え60名のメンバーでスタートしました。発足時から17年の経験を積んだベテランと加入したばかりの新人が同じように活動することは不可能ですが、上下の関係ではなく、お互い刺激を受けつつ支えあって、その時その時の最善の形を作り上げていけたらと願っています。次年度も4月に「ホスピスボランティア入門講座」を予定しています。

2月には日程など決まりますので、関心をお持ちの方は高田までお問い合わせください。

開設時より毎週一度ホスピスに来てくださる協力牧師の篠田潔先生にお話を伺いました

### 牧師としてホスピスではどのように働かれているのですか

ラウンジで患者さんやご家族とお話します。希望があればお部屋へ伺います。牧師は説教するイメージをもたれがちですが、そうではありません。その方の話したいことを聴きます。

### どのような話をされるのですか

まずは共通の話題を見つけるために質問をします。趣味の話題が多いです。ある方は宝塚ファンだと言われて。その方にお目にかかると一緒に「すみれの花咲く頃」を歌いました。一緒に歌うのがいいんです。それにわたしは山が好きなので、山の好きな方と「あの山を登った」「わたしも登った」と一つ一つ言いあうこともあります。山で自分の見た景色や身体に感じる空気が、患者さんの話してくださるとぴったり合うような瞬間があるんです。

### 一緒に歌うことと山登りの経験を分かち合うのは、同じようなことなのですね

そう。世界観というんでしょうか。自分のもつ世界観と相手の世界観を合わせることを大切にします。

趣味の話をしているうちに「死んだらどうなるのか」と聴く人もいました。その人は「死を迎えるだけの今に何の意味があるんだ」とも言われました。私は「ありったけの感謝をしなさい」と言いました。



(初雪をまとう木々)

その人はいつも妻にぶすっとしていましたので。人生の大半を一緒に過ごしてきた妻に感謝することは、自分自身の人生に感謝することです。「ありがとう」を伝えることはホスピスでご家族に教わったことでもあります。「いろいろ苦勞もあつたけど最期にありがとうと聞いてうれしかった」と聞きました。

### 『ありがとう』と伝えられるときに伝えておかなければならないのですね

そうですね。それと「ごめんなさい」もね。悔いが残っていたり罪悪感を抱えて「赦されたい」と思っている人がいたら「そう思っているあなたは、すでに赦されている」と言います。「わしゃだめだ」「自分は何でこんなに弱いんだ」と言うことは、すでに自分にちゃんと向き合っているんです。そういう人間を神様はちゃんと見て救ってくださるのです。これは何もキリスト教だけの考えではないんですよ。歎異抄には、親鸞が「とても地獄は一定すみかぞかし。弥陀の本願まことにおはしまさば、釈尊の説教虚言なるべからず」と言ったとあるんです。自分が悪人で弱い人間だから地獄に住んでいて当然だって思っている人こそが、阿弥陀様に救われるというのが親鸞の考えなんです。

牧師として伝えられることがあるとするならば、その人を「生かしているもの」があって、それは神様かもしれないし阿弥陀様かもしれないけれど、その存在によって死後も生かされているということです。その考えを押しつけるつもりはありません。しかしそう固く信じている私に話をして下さることで、「死んだら意味がない」というわけではないかもしれないと思っ

(聞き手 チャプレン：中井)

## 賛助会員募集のお知らせ

愛知国際病院ホスピスでは、賛助会員を募集しています。アメニティーの充実（施設環境、造園、園芸）、ホスピスでの諸行事、ホスピス相談の充実、広報啓蒙活動、家族会の開催、ボランティアの活動、教育活動のために是非ご協力をお願いいたします。（ご入会いただいた方には年4回発行の病院だより「みなみやま」と年2回の本誌をお送りいたします）

### 入会方法

下記の口座に会費をお振り込み下さい。

郵便振替口座 00890-5-3757

口座名義 愛知国際病院ホスピス賛助会

一口1000円（おいくらでも結構ですが、できましたら5口以上でお願いいたします）

## 明日葉の会へのお誘い

明日葉の会は、愛知国際病院ホスピスで大切な家族の看取りを経験した方々が集まり、思いを声に出し、分かち合う会です。「明日葉」という植物は、今日摘んだ芽が明日には伸びてくるといほどの生命力の強い植物で、それにあやかり会の名前としました。家族を看取られてから半年以上を過ぎた方を対象として、偶数月の第3土曜日午後2時から4時、病院の一室をお借りして集いを行っています。続けて来られる方も、間を空けて来られる方もおられますので、ご都合がつく時に自由にご参加ください。

詳しくは世話人（家族代表）の太田博文までお問い合わせ下さい。

連絡先 〒470-1153 愛知県豊明市前後町三ッ谷1277-3 太田博文  
TEL 0562-92-2294 Fax0562-92-8294 E-mail h-ohta@pop21.odn.ne.jp



## 病院敷地内にある植物シリーズ⑥

### 「シュウメイギク」

漢字では、「秋明菊」と書きます。その名のとおり、夏が終わった頃から10月末頃まで花を付ける秋の植物です。敷地内には一重のシュウメイギクもありますが、珍しい八重もありますのでぜひ探してみてください。

秋に咲いた花が落ちてからそのまま置いておくと、萼（がく）が割れ、たくさんの種を付けた綿が出てきます。

多くのシュウメイギクは花が落ちると刈られてしまい、綿毛ができることはあまり知られていません。盛りが終わったからといってさっさと刈り取るばかりでは、なんとももったいないことをしているのかもしれない。